友愛
発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽 1-7-1
電話 東京（941）2801
編集兼発行人　斎藤 実
定価　1部　10円

綱領

一、われらは、自らの尊厳にめざめ相互の人格を尊重し健全明朗な友愛社会の実現に邁進する。

一、われらは、民主主義の健全な発展のために、全体主義を排除し日本国民として公正な識見を確立する。

一、われらは、科学技術の振興と生産の増強をはかり健康で文化的な福祉国家の建設に挺進する。

一、われらは、全世界の人間的つながりのもとに国際連帯の意識を養い、もって世界平和と人類の福祉に寄与する。

明日の日本を考えよう

約50カ所開催予定　文化講演会全国巡業始まる

昨年より本会の社会教育事業として開催して来た友愛文化講演会は、本年も社会教育活動の継続事業として全国約五〇ヶ所で開催する計画である。昨年は「現代社会の道標を求めて」を大きな標題として日米安全保障条約・大学教育など時局的な国内外の諸問題から青年の悩み職場での人間関係等々の身近な問題を取りあげ、青年の役割・青春時代の生活のあり方を浮彫りにして来た。本年は、「明日の日本を考えよう」と題し七〇年代の日本の方向を政治・経済・文化といった種々の角度からとらえ、一般青年の思考を深めて行こうとするものである。

本年度講演会の皮切りとして六月二十五日（金）千葉県南房総長狭町の 松尾寺青年館 で開催された。

長狭町は、まだ組織化されていないが町長を始め町全体が青年運動の良き理解者であり当然にして活発な青年活動を展開している地域である。

講演に先き立ち町長の小堀氏より「この町にも友愛運動の花を咲かせ青年の力強い創造力をもって新らしい町づくり人づくりを行ないたい」と友愛運動を称賛する祝辞が寄せられた。

次いで本部の渡部文雄常任幹事が「友愛運動の必要性」と題し、本会の歴史から現在の運動についての説明 を中心に現代 における〃友愛運動〃の必要性を説いた。

当地での講演会は、今後南房総地域に友愛運動の拠点を築く意味で注目されるところである。

一方桐生市講演は、去る六月二十七日（土）桐生市勤労青少年ホームのホールを会場として盛大に開催された。

講師として桐生市教育委員会社会教育課長広田秀夫氏、それにNHKの大塚利兵衛氏を招いた。

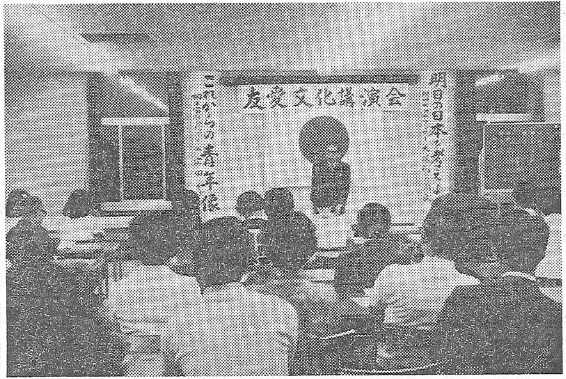
開催の中心となった桐生支部は大谷勝義支部長を柱とし良くチームワークがとれ、幾多の困難にも負けず、広報活動を始め、官庁から職場の接渉も積極的に進めた結果、組織の充実はもとより、市のすみずみまで〃友愛〃の名を知らしめ、今後の友愛活動を展開して行く土壌が出来たといえよう。

開会に先き立ち、群馬県連会長の佐伯詔一君より開催の挨拶があったあと講演にはいった。

桐生市社会教育課の広田氏は、氏自身の青年時代の生活から今日までの過程についての経験のなかに青年が改めて考えなければならないたくさんの問題を提起された。

次いで本部の永田清成常任幹事が、友愛運動の必要性・本講演会の意義を述べたあと、大塚利兵衛氏の講演にはいった。

大塚利兵衛氏は、先ず今日の国際情勢をマスコミ人としての立場から分析され、動乱のベトナム、カンボジア政変等の東南アジアの動向とそ れと関連する ソビエット、中共、アメリカなどの大国の思惑と国際情勢の現状から世界平和の見通しと、今日、日本の置かれている立 場について 述べられた。特に日本国内で問題となっている。一連の政治・社会問題をどう捕えて行くか、またマスコミの一般大衆に与える影響について、情報を与える側、受ける側の相方は情報反乱の時代の今後どう対処して行くかについて講師と聴衆が一体となり考えさせられた熱のはいった講演であった。講演のあとの質疑応答では、マスコミ界の裏話に注目を集めた。さらには友愛運動の情宣活動の面にもふれられ今後参考となる一提言を頂いた。


友愛文化講演会
明日の日本を考えよう
これからの青年像

主張　公害危機に思う

虫を殺し、小鳥を追い、海をよごす公害がとうとう加害者である人間をも むしばみ はじめた。

東京の大気は、自動車の排気ガスなどで、すっかり汚染されてしまいこの大気汚染が、原因で身体に異常を訴える住民が続出している。

一方空気の澄んでいる農村地域にも工場の出す煙や排水により、カドミウム米や、阿賀の川の水銀病、黒部のイタイイタイ病が発生した。今や公害は、全国いたる所で大きな問題となってきている。

自然環境の破壊は人間の生命をむしばむ

わたくしたちは、今まで自然をこわすことにあまりにも無とん着すぎた。東京ではケヤキやイチョウなど夏の盛りの七、八月に異常落葉する木がふえてきている。また地方の観光地では旅館街からの汚水で死の湖となり、無茶な観光開発のため湖沼は干あがったり して いるという。そして海や山の行楽地は、ゴミの山となり景観はまったく損なわれてしまった。

文明は自然を征服することで成長して来た。と言うことは人間は、自然を破壊して生存して来たことを意味する。そうして人間はもろもろの廃棄物を出して来た。そして、その廃棄物を浄化する役目はもっぱら自然の能力にまかせっきりであった。ところがあまりにも莫大な廃棄物の増大により浄化作用はストップし、今では自然そのものが廃棄物に破壊されてしまう結果を招いた。

都市政策の誤ちが公害を生み青年の心を異常にした

緑のない殺伐とした自然環境のなかでしかも交通の渋滞、通勤電車のラッシュ、後進国なみの住宅事情の都市社会が生んだものは、エログロ雑誌や頽廃的な音楽に代表される精神文化であり、正直者は馬鹿をみる、という社会風潮であった。

このような社会環境は、本来絶えず創造的であるべき青年をしてカラーテレビやセックス、カーなどの目先の快楽だけを求めさせ、あるいは大学紛争に見られた自暴自棄な行動をとらせる極道者にしてしまった。

これらの責任は親とか学校の教師だけにあるのではなく問題の核心はむしろそうした社会環境をつくった、都市行政の誤ちという政治に問題がある。それは東京の狭い地域に一千万以上の人間を住ませたこと自体が交通・住宅・環境衛生を司どる自治行政能力の限界を越えているのである。

一日も早くきれいな空気を

わたくしたちは汚染された空気のなかでカラーテレビや自家用車のある生活より花鳥風月にひたれる美しい自然のなかの生活の方を求める。

きれいな空気と美しい自然環境は豊な人間生活を営むための基本的な条件だからである。

わたくしたちは〃公害〃の重大さを認識し、地方自治体、企業に対してはもち論のこと特に政府に対しては、小手先だけでなく、今までの都市政策並びに済済政策のあり方に反省を加え総合的な公害対策をおし進めるべきことを強く主張する。

×　×

ヨーロッパ 中近東　海外派遣者

団長を初め多数決定す

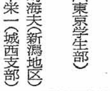
例年夏期を迎えると恒例の海外派遣事業がはじまる。本年の国際事業は既に第七次友愛東南アジア使節団を出し激動の東南アジア諸国を歴訪した結果東南アジア諸国青年との結びつきを強め、今後はさらに一歩前進した本会の東南アジア交流を推進するための礎を築くに大きな成果を残している。

今季の海外派遣は、奥田常任相談役がハンガリー団の団長として指揮を取るのを始め、長田事務局長は訪独団の監督に決定、さらには中近東訪問団の副団長として佐藤力男氏・ポーランド班の団長として山崎拓氏・そして特別指導者として石崎海夫、岩下栄一の両氏が決定しているなど各方面で日本団の責任を担い見事な活躍と成果が期待されている。

決定した海外派遣者は次の通り

＜第12回政府青年海外派遣＞
中近東班
副団長　佐藤力男（本部）
オセアニア班
団員　大山紀子（東京都連）
＜世界青少年交流協会海外派遣＞
ハンガリー班
団長　奥田吉郎（本部常任相談役）
ドイツ班
監督　長田正太郎（常任幹事）
団員　細井恭子（幹事）
　村井幸栄（加賀支部）
スウェーデン班
団員　阿部光博（東京都連）
ソ連・ポーランド班
団長　山崎拓（福岡支部）
ギリシア班
団員　鳴島均（東京学生部）
ヨーロッパ班
特別役員　石崎海夫（新潟地区）
　岩下栄一（城西支部）

以上役員・団員総数十一名は各々本部で研修を行ない七月上旬から九月上旬にかけ出発する。



第2回中級指導者研修会の案内

日　　時	9月4日午後4時～6日午後1時 （現地集合・現地解散）
会　　場	国立淡路青年の家（兵庫県淡路島）
主　　催	友愛青年同志会中央教育指導部
参加資格	支部長及び連合会役員並びに本部役員
参 加 費	1,500円（宿泊・食事・資料の各費用と交通費片道普通乗車券は本部負担）
主　　旨	本会組織で充分活動できる優秀な指導者を養成するため，活動プログラムの企て方，レクリエーション指導等の学習を行う。
※問い合わせ先	詳細については，支部連絡文書で通知しますが，本部の中央教育指導部に問い合わせ下さい。

全国組織委員会開く

組織の総点検を早急に

全国組織委員会（委員長＝渡部文雄常任幹事）で主催した第十回組織指導者講習会は、六月二十七日（土）から十八日（日）の二日間、滋賀県大津市の琵琶湖に面した麗湖荘に宿舎を構え、当面の組織対策と支部活動に関する指導要領について熱心な研究討議が行なわれた。

出席者は全国十ブロックから選出されている全国組織委員のメンバーと本部執行部で直接組織と関係している学生部、婦人対策部、地方対策部からの役員十二名が参加した。

主旨は、全国組織の現状の分析を基に、組織上の当面しているいろいろな問題点を浮きぼりにし、その解決の方策を研究すると共に本会組織のパイオニアである組織委員としての重責を全うできる優秀な指導者の育成を図るためである。

具体的には①組織の問題点とその対策②課題＝地方ブロック大会を開催するには③四十五年度の具体的な組織計画④組織指導の実践はどうあるべきか⑤組織委員の役割と友愛運動の展望、以上の五項目について研究討議を行なった。

五項目のうち特に重要視されたのは①組織の問題点とその対策と③四十五年度の具体的な組織計画の二点についてであり決定された主な事項は次の通り。

（1）組織の総点検

年度内に組織委員が中心となり組織の実態を把握する。具体的な方法として各支部に対し会員名簿提出を始めとする事務手続を強く要請して行く。

（2）行政との連携強化

都道府県を始めとする青少年教育に関する地方行政機構とコンタクトをはかり、地方組織のPRを推進するとともに活動資金の援助をも求めていく。

（3）広報員の設置

各支部に、組織の一般のPRと本部に 支部活動状況 を連絡する〃広報員〃の設置を義務づける。

（4）地方ブロック大会開催の検討

現在のブロック別研修会の充実をはかるなどにより近い将来、地方ブロック大会の開催を実現することを前提として検討していく。

以上の主な事項について組織委員会の決定をみたが、全国組織委員会ではこの取り扱いについては決定事項を組織委員会答申案としてまとめ常任幹事会に提出し早急に対策に着手してゆく 方針で ある。

一泊二日の日程終了後、開催地の組織である滋賀支部と恒例の懇親会が開かれ全国の組織委員と滋賀支部（支部長＝内田不二夫君）の役員十名と 昼食を 囲み懇親会を開催した。懇親会は組織委員のメンバーと地元滋賀支部の役員が順々に自己紹介を行なったあと乾杯をして懇談にはいりなごやかな懇談風景であった。

財団友愛　第16回理事会開く

北海道山荘の具体化を図る

財団法人日本友愛青年協会（鳩山薫理事長）第十六回理事会、第十一回評議員会は六月十一日午前十時三十分から鳩山邸第一応接室で鳩山理事長はじめ各理事、評議員が出席して開かれた。

会議は鳩山理事長が開会の挨拶をおこなったのち議長となり進められた。

議題は（一）昭和四十四年度事業報告（二）昭和四十四年度決算報告（三）昭和四十五年度事業計画（四）昭和 四十五年 度予算案（五）北海道友愛山荘建設についての五議題案が提案された。

まず尾形智矩事務局長が四十四年度の事業の概況を説明。特に四十四年度は前年につづいて将来の発展の基礎づくりをおこなうことを目標に内部充実に力を入れて運営されてきた。その結果、かねてより懸案となっていた軽井沢友愛山荘の改修をはじめ、各山荘とも内部の改修、敷地内の整備をおこなったことが報告され承認された。

四十四年度の収支決算については各山荘管理主事を中心とするスタッフの努力の結果昨年に続き連続好成績をあげることができ拍手で承認。

次に四十五年度の事業計画を討議。本年は昨年の基礎の上に立って、利用者の一層の増加を促進。特に懸案である北海道友愛山荘、友愛会館建設への具体的なとり組みを関係各位の協力を得ながら進めることを中心とする事業方針が決定された。

四十五年度予算については一昨年、昨年の実績をもとに本年はさらに努力し北海道友愛山荘、友愛会館建設の財政的な基礎がためをおこなうことが確認された。

最後に北海道友愛山荘建設について討議。この件についてはかねてからの目標であり地元友愛会員をはじめ関係者が熱心に運動をはじめ、その機運が盛り上ってきている。従って地元と十分に連絡をとりながら実現のための具体化をいそぐことが決議された。

十二時三十分全議題の審議を終了し散会した。

直言

◆本会の国際交流活動も年を追って盛んになって来た。特に今年は〃万国博世界青少年のつどい〃が本会の提唱によって、中青連の各青少年団体が中心となり、各界の協力を得て去る七月九日から二十三日までの二週間にわたる会期で開かれた。参加国二十二ヶ国、約一千人の青少年の参加によって〃人類の進歩と調和〃のテーマのもとに国際親善の集いが開催されたことは、本会のみならず、世界の青少年活動に新たなエポックメーキングとして高く評価されてよい。◆青少年の国際交流活動の幅広い活動は、誰しもその必要性を認めるものである。国境を持たない我国では、欧米諸国のような青少年の人的交流をすすめるためにはまだ多くの問題をかかえている。しかし交流活動の輪をさらに広げる努力を惜んではならない。青少年による人的交流は、次の世界を背負う若者の相互理解と相互信頼を確立する基盤であり、世界平和推進の大きな礎石となることを確信するからである。◆本会からも過去幾多の諸兄姉が海外に派遣され、研修の機会を得た。その結果、友愛国際クラブも結成されたしかし現状を見るに、海外派遣者達はその後どのように海外派遣の経験を自分の生活に生かしているであろうか？単なる観光旅行としての思い出話のみに 終始しては いないだろうか？人との出会いをその後も大切にしているだろうか一考を要する問題であろう。◆国際交流の基本は人と人との出会いに始まると考えて良いであろう。異なった政治経済、社会文化体制の背景と、新しい潮流による変革の中で、今後の国際交流のあり方をこの辺でじっくり再検討して見る意義も大きいのではないかと思う。

日本人という偏狭さから解放され、世界人として、真に人間的な交わりの輪を広げ深めて行くべきかを真剣に考えようではないか、そこから人種、民族を超えた〃友愛の対話〃が生まれて来ると信じるからである。

そうした友愛の対話が、長年の懸案である友愛アジア会議となりやがては友愛世界会議まで発展させることがわれわれに課された仕事であろう。（実）

還れ北方の地

北方領土返還運動

青年学生が率先して展開

沖縄が七十二年に返還実現をみると 残るわが国の領土問題は 対ソビエットとの北方領土だけとなる。政府の沖縄北方対策庁の新設を始め関係各機関の北方領土返還実現の運きがにわかに活発化して来ている。

先に結成された北方領土返還実現全国青年学生会議（本会他十五団体加盟）では、青年学生が率先して返還運動を積極的に展開して行くには現時点が最良であるとの判断からこの度の北方領土返還実現総決起大会開催になったものである。

決起大会の開催模様は、新聞、テレビにも報道されたのを始め、関係機関から当大会に関心がよせられ今後どのような運動を展開するかが注目されよう。

北方領土返還実現全国青年学生総決起大会は六月二十日午後一時半より東京の日本青年館大ホールで開催された。

大会は、開会の挨拶、国家斉唱で開会され、先ず大会実行委員長の吉田重次良さん（世界連邦日本青年協議会）が「沖縄が返還されれば、残るは唯一つ北方領土だけとなり、われわれ青年が率先して大々的な国民運動として展開して行く」と力強く挨拶した。続いて議長団並びに書記が選出されたあと本会の尾形智矩幹事長が、本大会に至る までの経過報告 を述べた。

次いで来賓祝辞に入り、まず政府を代表して総理府総務副長官の湊徹郎氏が「政府は北方対策庁を新たに設置し早期返還を図って行く構えだが肝心の国民世論が盛り上っていない。政府としては皆さん青年、学生の正義心に燃えた熱情をもって今後、国民世論の喚起に努力されんことを期待します」と挨拶され満場の喝采を浴びた。そのあと自民、民社の各党の代表から激励の祝辞が述べられ、次いで北海道根室市の市議会代表者萬屋氏とだ捕された経験のある高橋氏が現地の実情を詳細に述べ、領土復帰を力強く訴えた。その後、大会宣言、大会決議を満場一致で採択し無事大会を終了した。

第二部の記念講演は「私たちは北方領土問題をどう考えるか」と題し、東海 大学の吉村正 教授が「北方領土返還の要求は日本国民として当然の主張である」と返還要求の正当性を裏付けされた。

領土返還実現全国青年学生総決起大会
方領土
起こそう 返還運動
わが国固有の地
訴えよう国民に 世界の人々に
演壇

高知、東南アジア使節団と懇談会

高知支部（堀田博嗣支部長）では六月七日午後六時から市内の大利屋旅館で本部から尾形智矩幹事長、第七次友愛東南アジア使節団の白名瞭悦郎君（島根）鈴山敏和君（石川）が出席し、支部会員多数が参加して懇談会を開いた。

会は堀田支部長の挨拶にはじまり、尾形幹事長の友愛運動の現状報告、さらに白名、鈴山両君よりそれぞれの地域における活動状報告がおこなわれた。

そのあと友愛運動のすすめかたについて意見交換。つづいて懇親会に入った。

懇親会終了 後全員で〝月の名所〟で有名な桂浜にでかけ歌の交換等楽しいひとときを過ごした。

田辺支部 OB会独立

和歌山県田辺支部ではこの度、会員の年長者のグループが結束し田辺OB会を発足させた。

このOB会は、会員のなかで既に結婚している者のグループで構成し今後OB会の面々が支部の良き相談相手となり後輩の指導にあたることになった。OB会の活動としては①会員相互の親睦②家族ぐるみの交流③一般教養を高めるための学習会等を挙げ特に、〝友愛運動は家庭から〟を合言葉にし家族ぐるみの交流に重点を置き、家庭内から友愛運動の定着を図って行くこととしている。

徳島県連大会を開催

「選挙権十八歳」運動を展開

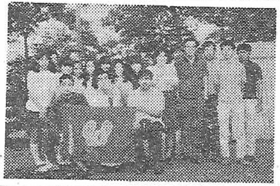
【徳島発】第九回徳島県連大会は六月七日（日）徳島市新町公民館で開催された。

来賓には本部より長田正太郎事務局長、中村博彦常任幹事（学生対策部長）が出席九回目の大会を祝した。

本年度の活動方針として①普及活動として（イ）機関紙阿波友愛の継続発刊（ロ）友愛講演会の定期開催②社会活動として特に〝有権者十八歳にする運動〟を積極的に取り組み、青年の政治への関心を高めて行くことと共に社会人として建設的なしかも責任感のある青年となるよう相互啓発を行なって行くことを主旨としている。

新役員は次の通り

会長　阿部　克己
副会長　坂東　磨
　佐藤　勉
　山尾　雅泰
事務局長　吉本　憲二
事務次長　森川千代子
会計　斎藤　幸生
監査　細井　良昭
　和泉　一朗



東京学生部躍動

フォークソングやバスハイク

六月七日（日）横浜にて横浜スワローズと称する（代表者 辻実君）チームと交歓試合を行った。快晴の下久しぶりに動かす身体もぎこちなく試合は 珍プレーの続出。練習不足、エースの不在もあってか我学生部先取点は取られたものの後半自力を発揮し、結果は八対八の同点と上々の出来であった（これは学生部女子の応援のたまものである）他団他との親睦という目的で行ったこの試合は終了後友愛旗の下で友愛の説明等を行い、多大なる盛果をおさめた。横浜スワローズとの再試合を誓い散会した。また学生部ではこの種のものを今後も積極的に行っていくつもりである。

六月十三日東京学生部フォークソングサークルは本部に近い江戸川公園 でフォーク の集いを行った。

本年度よりサークル部の一つとして活動しているフォークソングサークルは学生部の重大なる一つのパートである。わずか数時間ではあったが友愛学生部の歌をはじめふだん聞きなれている曲を次から次へと歌い楽しい一時を過した。

東京学生部では、これを今後、情宣活動にも役だてようと思っている。また回数を重ねる度に一般市民にも呼びかけフォークの大集会的な事も考えている。これは学生部のみならず他支部の会員も気軽に参加出来るのでどしどし参加してほしい……。

六月二十一日（日）奥多摩にて新歓バスハイクを行った。参加者三〇名を乗せたバスの中はあいにくの雨にもかかわらず笑いが絶えなかった。現地に到着する頃は雨も上り、昼食に用意したブタ汁がおいしかった。キャンプ場にもなる現地ではゲーム、フォークソングサークルによる指導による歌等で一日を存分に楽しんだ。

会員相互の親睦を計るバスハイクは、本年度最初の大きな行事だけに執行部一同大変ではあったが自分なりに皆なが何かを得た事はたしかである。

なお学生部の今後の行事として、七月三十一〜八月三日全国学生会議八月二十一〜二十四日にサマーキャンプを予定している。

他に、本年度より 実施している。テニス、洋弓、フォークソング、英会話、Y・L（Yuai Lady）と称する奉仕活動サークルなどが活動しているので東京学生部では他支部の方々の参加を期待しかつお待ちしているものである。

—東京学生部広報員—

東南ア留学生を招く

【三島発】三島支部（支部長＝黒萩道義君）は、六月二十一日東南アジアから来ている若い留学生十八人を招いて三島市や伊豆の名所を案内し、親善を深めた。

一行はインドの公務員テルキンさんらで去る四月から日本に留学しており、七月二十七日の帰国を前に各地を研修して回っている。

テルキンさんらはすっかり日本になれて、カタコトの日本語であいさつするほどになっているが、あいにくの小雨も気にせずお互いにカサをさし合ってなごやかな見学風景をみせていた。

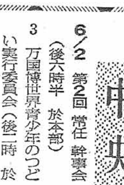
日本に来て工業の発展ぶりに驚いたという。三島大社では建物にきめ細かな装飾がされているのに目を見はっていたが、社殿などに戸がついているのを意外な感じでながめていた。

第6回友愛サマーキャンプ大会開催要項

1，名　称　第6回友愛サマーキャンプ大会
2，主　催　友愛青年同志会東京学生部
3，後　援　友愛青年同志会本部
4，主　旨　自然の中の協同生活において健康の維持増進を養い，グループによる民主的共同生活を通して相互理解を深め，よりよい人間関係を深めることを目的とする。
5，期　日　昭和45年8月21日～24日 3泊4日
6，会　場　国立中央青年の家・太郎坊キャンプ場（静岡県御殿場市中畑ＴＥＬ0550－2－2020）
7，参加費　1，000円
8，経　費　東京よりデラックスバス乗車の者は1，200円
9，締　切　満員になり次第〆切
10，問合せ　第6回サマーキャンプ大会準備委員会　担当者：荻原要二　TEL 941－2801　943－1888

※デラックスバス利用の者は東京駅丸の内中央口に午前7時30分に集合　なお，バス利用の場合は早目に申込むこと。

春夏秋冬



▽…四十二年までの二年間本会の留学生交換事業で日本に留学したシャファー・コニー両嬢は現在故国マレーシアで留学経験を生かし元気に働いている。

去る四月第七次東南アジア使節団がマレーシアを訪問した際、彼女らの成長ぶりには驚かされたそうだ。コニー嬢は既に結婚し現地のホテルに勤務しており、またシリファ嬢はマレーシア青年連盟で現地の青少年教育に従事しているという。使節団の面々は彼女らの活躍を目の辺りに見た時、四年前日本で勉強していた時の両嬢を想い出し感慨一入であったそうだ。彼女らを学ばせるに並ならぬ世話をされた九州の真武信行さんの喜こびはどんなにか……。

▽…万国博世界青少年のつどい開催も間もない。本会ではこの催しを最初に提唱し実現せしめるために奔走してきた。こうした経緯から是非とも成功させねばと実施に際しては全力投球の構え。役員及びスタッフの導入から開会式の参加動員まで大変な苦労が伺える。最後まで関係者の奮闘を願う。

中央日誌

6/2　第2回常任幹事会（後六時半　於本部）
3　万国博世界青少年のつどい実行委員会（後二時　於全国町村会館）
7　早朝墓参会（前七時　於谷中墓地）
　第9回徳島県連大会（後一時　於徳島市）
8　友愛婦人会六月例会（後一時　於鳩山邸新館）
10　万国博世界青少年のつどい実行委総務部会（正午　於全国町村会館）
11　（財）日本友愛青年協会理事会（前十時　於鳩山邸）
　ペルー大震災救援に関する打合せ会（後二時　於日赤本社）
12　北方領土返還実現全国青年学生会議懇談会（後一時　於虎の門共済会館）
14　第10回北海道連大会（前十時　於登別町公民館）
15　東京都連臨時役員会（後七時　於本部）
16　北方領土返還実現全国青年学生会議懇談会（後一時　於全国町村会館）
17　友愛クラブ特別懇談会（後六時　於椿山荘）
　北方領土返還実現全国青年学生会議懇談会（後二時　於九段会館）
19　青少年育成国民会議事務局幹事会（後六時　於霞山会館）
　万国博世界青少年のつどい実行委員会（後五時　於全国町村会館）
20　北方領土返還実現全国青年学生総決起大会（後一時　於日本青年館大ホール）
25　青少年活動展懇談会（後三時　於青少年総合センター）
26　核兵器禁止平和建設国民会議全国代表者会議（後一時　於虎の門共済会館）
　友愛文化講演会長狭町講演（後七時　於千葉県長狭町）
27　第10回全国組織委員会及び組織指導者講習会（27日～28日　於大津市）
29　青年の船、団員選考委員会（後六時　於本部）
　万国博世界青少年のつどい実行委員会（後六時　於全国町村会館）
30　第三回執行部会議（後六時半　於本部）

第10回　全国青年政治討論会演説原稿募集

＜テーマ＞
1．投票の拘束について
　例えば，部落会，町内会のすいせん，組合の縛りつけ，その他団体の圧力等について
2．政治と私

＜要　項＞
1．枚　数　400字詰原稿用紙4枚
2．応募資格　25歳までの青年男女
3．〆　切　45年9月10日
4．応募先　東京都千代田区永田町1－1－1　〒100　尾崎行雄記念財団

＜討論会＞
1．開催日　11月17日（土）午後1時
2．会　場　尾崎記念館
3．出演資格　演説原稿に入選した者

＜表　彰＞
尾崎咢堂杯　賞状，賞金2万円　5名
入選佳作　賞状，記念品　3名

＜主　催＞　(財)尾崎行雄記念財団　(財)公明選挙連盟
＜後　援＞　NHK　(社)日本新聞協会　(社)日本民間放送連盟
＜主　旨＞　わが国議会政治の発達に偉大な功績をのこした尾崎行雄先生を追憶し，その思想を普及し，青年の健全な政治思想の向上に資する。

鹿島研究所出版会
人づくり、国づくりにも役立つ
友愛思想の名著
クーデンホーフ著作シリーズ
■R・クーデンホーフ・カレルギー伯著
法学博士　鹿島守之助訳
パン・ヨーロッパ　—ヨーロッパ連合—　￥380
ヨーロッパ国民　￥370
実践的理想主義　￥200
世界平和への正しい道　￥200
悲惨なきヨーロッパ　￥200
技術による革命　￥200
ゼントルマン　￥70
ヨーロッパにおける貴族の使命　￥70
ヨーロッパの統合　￥70
戦争から平和へ　—平和のための条件—　深津栄一訳　￥300
ヨーロッパは統合しなければならない　深津栄一訳　￥200
■オルガ　クーデンホーフ手記　鹿島守之助訳
母の思ひ出　＜独文和文＞　￥100
■近刊
クーデンホーフ自叙伝
人生の戒律
■河出書房版
法学博士　鹿島守之助訳
ヨーロッパの三つの魂　￥430
物質主義の運命　￥430
学校・図書館の必備図書　図書目録呈
東京・芝田村町　五ノ九浜ゴムビル内　鹿島研究所出版会